

「豊かな社会」を実現するために、我々にできることはたくさんある。
企業理念とCSRを機軸に社会の発展に貢献していきます。



取締役社長
小林 栄三

温暖化、食糧、水、人口問題、エネルギー 世界の緊急課題について 私は以下のように考えます

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告にもある通り、地球の温暖化は深刻な状況にあると思います。また、アル・ゴア氏の『不都合な真実』は、すでに認識していた地球温暖化の問題をさらに克明にし、我々は危機に遭遇しているという認識を新たにしましたと思います。

地球温暖化以外にも、世界はさまざまな重要課題に直面しています。私が最も懸念しているのは、食糧と水の問題です。1800年頃10億人だった世界の人口は、130年

後の1930年頃に20億人になり、それから80年足らずの間に65億人になりました。2050年には90億人ぐらいになるだろうと予測されています。気候変動と人口の増加などの複合によって食糧や水が不足すると、奪い合いになり、争いが起こりかねません。同様に、エネルギーの問題も早急に解決しなければならない重要な課題です。

地球規模の問題を解決するために、 伊藤忠グループにできることがたくさんあります

地球規模の問題を考えると、伊藤忠グループには、やらなければならないこと、また、できることがたくさんあるように思います。

例えば、化石燃料に代わるエネルギーの問題は、解決策を見つけるまでに時間がかかっています。しかし、時間がかかっても取り組んでいかなければなりません。発電に関しては太陽光や地熱、風力、あるいは波力、バイオマスなど、あらゆるものを組みあわせて、解決していく必要があります。近年注目を集めているエタノールも、代替エネルギーとして有望ですが、原料がサトウキビなどの食糧であることから、バランスをとって考えていかなければなりません。

伊藤忠グループはバイオエネルギー、地熱・風力発電などの事業に、さまざまな国や地域で取り組んでいます。試行錯誤の繰り返しであり、経済的に見合うには時間がかかりますが、私たちの社会的責任として取り組まなければならない課題であると考えます。

ベターソリューションから利益を生み、 その利益を次のベターソリューションに 活かしていく

当社の企業理念「豊かさを担う責任」とは、現状に対して世界がより良くなるための道筋を提案し、責任を持って提供することです。一方で、企業は経済活動を通して利益を上げなければなりません。

中国のある都市で、水道事業の運営について資本参加しないかというオファーをいただいたことがあります。インフラが整備されていないところに、水道をひく事業には意義がありますが、すでにインフラが整っているところに、利益だけを求めて参入してもいいのか。企業理念やCSRの観点で、このお話はお断りました。人の生死に

直結する公共の部分で利益だけを求めることに疑問があったからです。

経済活動とCSRの間で、こういった難しい判断を求められることはこれからも出てくると思います。利益だけを追求するのではなく、それが社会にとって、そこに暮らす人々にとって、本当に意義のあることなのか。豊かな社会を生み出す原動力になるのか。常にそれを念頭において判断を下さなければなりません。

企業として、ベターソリューションを提案しながら利益を生み出し、その利益を次のベターソリューション開発に活かしていくことで、大きな意味で社会に還元していく。我々はそういったループにすでに入っているものと確信していますが、これからもそのことをいつも意識して事業を行っていきます。

ガイドラインはビジネスチャンスであり、 人類の進歩に貢献することにつながる

地球温暖化防止のために、CO₂の排出枠などのルールをつくってやっていくのか、あるいは自主的にやっていくのか、議論の分かれるところです。私はある程度のルール、ガイドラインは決めるべきだと思います。人間は弱い動物であり、ルールがなければより楽な方へ流される面を持っているからです。

一方で、ガイドラインをクリアすることは、現状よりもより良いソリューションが提供される可能性にもつながっています。例えば、チームマイナス6%をクリアするためには、単に省エネだけではなく、エネルギー効率を良くする、という努力も当然あるはずで、そういうことが、人類が次のステップに進む、ということだと思います。

同時に、それは伊藤忠グループのビジネスにとって、ハードルといった意味合いだけではなくチャンスでもあります。そういったチャンスを捉え、的確なソリューションを生み出すことで、社会全体を豊かにしていくことに貢献することが、我々の社会的な使命だと思います。

CSRを社員一人ひとりに浸透させる これに継続して取り組んでいきます

当社は7つのディビジョンカンパニーごとにCSRアクションプランを策定し2年目を迎えようとしています。また、ITOCHU DNAプロジェクトと名付けた業務改革プロジェ

クトを行い、社員一人ひとりの業務の可視化に取り組みました。その結果分かったことは、伊藤忠には数百のビジネスモデルがあり、ひとつのビジネスモデルを数人ぐらいの単位で実行しているということでした。

まさに、一人ひとりがビジネスの主体だということであり、社員一人ひとりがCSRの意識を持つことが、伊藤忠全体でCSRを実現するために必要であると再認識しました。

当社のDNAでもある「三方よし」の精神や、企業理念「豊かさを担う責任」、あるいは私が折々に言っている「悪いことをするな、嘘をつくな」。こういった当社のCSRの基本は、社員に浸透してきていると実感していますが、さらに浸透度を深め、全社員がそこに軸足を置いた上で、個々のビジネスを展開していかなければなりません。

一方、不心得者がいたとしても悪いことをできない仕組みを持つことも不可欠の要素です。仕組みは時として人を救います。我々はすでにその仕組みを持っていますが、CSRに終わりはありません。仕組みの強化を含め、日々継続してCSRに取り組んでいきます。

CSRを基本に、我々の強みを活かして より良い社会の実現に貢献していきます



伊藤忠グループは多くのステークホルダー、社会そのものに支えられてきたからこそ成長してこれてきました。その社会に対してどう貢献するか。それが我々の活動のベースでなければなりません。

「豊かさ」とは、物質だけではなく、さまざまな意味で「より良い社会」を意味します。我々は総合商社として、さまざまな業界を網羅しています。ひとつのプロジェクトに対して、それぞれが専門の分野で関わり、横断的な体制で取り組むことができます。また、川上、川中、川下まで、一貫したバリューチェーンをつくれるポジションにあること、生活消費関連という人々の生活に密着した分野が得意であることも、大きな特長です。

企業理念やCSRを常に念頭におきながら、我々自身が持っている強みを活かし、豊かで持続可能な社会を実現することに責任を持って貢献していく。そういった企業になりたいと思います。